



衆議院議員

# 小川淳也

# 政権交代への 失望を 乗り越える

**震災を経て**

まず東日本大震災で被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。また犠牲となられたあまりにも多くの皆様に哀悼の意を表し、そして香川を含め日本全国、また世界各国から被災者支援の取組が広がったことに心より敬意を表します。

私自身、三度に渡って被災地を訪ねました。最初は震災から二週間あまり、まだ新幹線も復旧していない頃、小豆島から特産のお醤油を取り寄せ、同僚議員らとともにレンタカーを借りて陸前高田市を訪れました。

陸前高田市は総務委員会の上司でもあった黄川田議員の地元です。黄川田先輩はこの震災でご両親、奥様、息子さん、事務所のスタッフの方を亡くされました。かろうじてお嬢様だけが助かり、その後も気丈に復興対策特別委員長として基本法や予算の成立に尽力しておられます。そして「俺は仮設住宅に入る最後の地元住民になる。」そう宣言して懸命の取組をされています。

国会と言えば政争ばかりが報じられがちですが、一方でこうした立派な先輩が地道に活動していることも是非ご報告させていただきます。

二度目は総務委員会の公式訪問で岩手県沿岸を、そして三度目は原子力災害対策で福島県郡山市を訪ねました。被災地支援の取組は阪神大震災のときと比較しても、少なくとも予算額や法律の枠組みでは見劣りしないものとなっています。しかし仮設住宅の建設や義捐金の配分などスピード感をもって被災者の皆さんに届かなかったことが大きな課題でした。



また原子力災害については冷却や閉じ込めに時間がかかっていることに加え、地域の除染作業、農畜産物の汚染などの影響、そして脱原発という大方針や、政策推進の手法まで含めてあまりにも課題が大きくなっています。

私自身以前から自然エネルギーへの転換の重要性を訴えて参りました。産業革命以来、数百年ぶりに人類に迫られる根本的な構造変革だと思っております。この分野で日本が世界最先端を走り、世界中から十分な利益と尊敬を得ることが必要だと感じるからです。

一方で、太陽光や風力など天候に左右される不安定な自然エネルギーを十分普及させるには、弱点を補う設備が不可欠です。この点、国境を越えて電力需給を調整できる陸続きのヨーロッパ諸国とは異なります。蓄電池を整備するなど技術開発と大幅なコスト引き下げを大胆に進めなければなりません。確固たる意志と周到な準備、10年から20年の時間を大切に使うて、安定的に変革を進める知恵と工夫が求められます。いずれにしてもこの未曾有の大震災の復旧・復興に向けて、今後も懸命の努力を続けなければなりません。

## 鳩山・菅政権の二年間から野田新政権へ

普天間問題、尖閣問題、予算の組替とマニフェスト実現の困難、そして先に述べたとおり震災対策や、原発問題、いずれも民主党政権に対する失望につながり、私たちにとても日々苦しく、また申し訳ない思いの毎日が続きました。

政権を担当するということの重さ、今の時代状況の難しさ、だからこそその鍛錬、修練を十分つまなま、自民政権倒壊によって政権を担当してしまつた。そのつけがあらゆる形で回って

来た、そう感じています。

しかし、鳩山さん、菅さんは民主党の創業者です。30年以上前から「自民党にとつて代わる政党を作る」、菅さんがそう言い続けて来たことは、当時の時代背景からすれば尋常でない、強烈な思いであったと想像します。鳩山さんも政界のサラブレッドとして生まれながら自民党を飛び出し、その後自民党に戻った方がたくさんおられる中で一貫してそれと闘って来られた。その意味ではやはりお二人の功績は大きかつ

たし、加えて小沢一郎さんという大きな力を得たことも、本格的な政権交代の時代を切り開くには重要であったこととは間違いありません。

私はそのことに対する敬意の気持ちは今でも持ち続けたいと思つています。しかし、この間の政権運営を総括する限り、これが国民の期待に応え、国民生活の向上や安心感につながるものとは言えない、反省点の多い二年間でした。



(中面につづく)